

Canon

RF

70-200mm F2.8 L IS USM

使用説明書

JPN

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノン RF70-200mm F2.8 L IS USMは、EOS Rシリーズカメラ用の望遠ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

お使いのカメラのファームウェアは最新のバージョンにしてください。ファームウェアの最新バージョンの有無やアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる可能性のある注意事項などが書いてあります。




基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や障害の発生を防ぐためにお守りください。

 **警告** 死亡や重傷を負う可能性がある内容です。

- レンズを通して、太陽や強い光源を直接見ないでください。失明の原因となります。
- レンズキャップを取り付けていないレンズを、日光下に放置しないでください。レンズに入った太陽光が集まり、故障や火災の原因となります。

 **注意** 傷害や、製品以外の物的損害を負う可能性がある内容です。

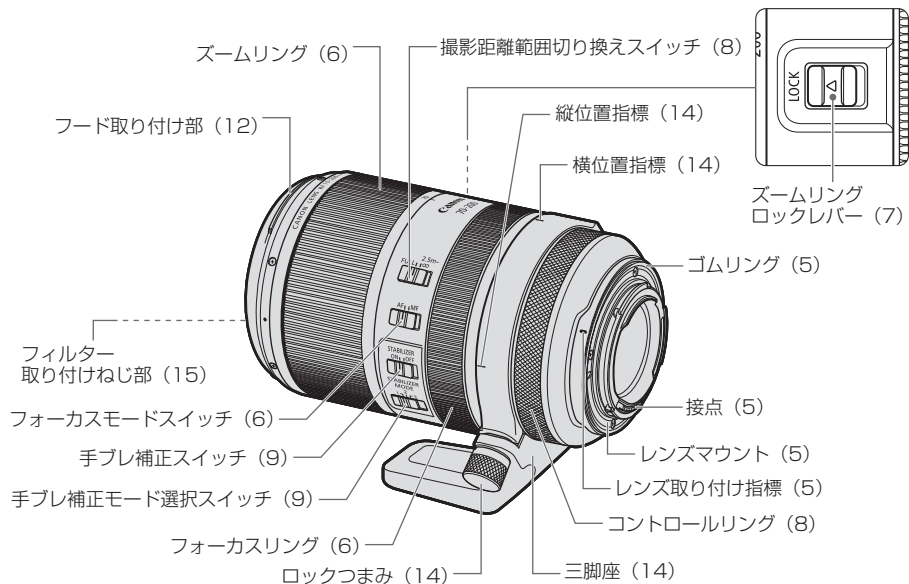
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品に触れるとやけどやけがの原因となります。
- 製品の内部には手を入れないでください。けがの原因となります。
- 三脚を使うときは十分に強度があるものを使ってください。
- 三脚座のロックつまみはしっかり締めつけてください。

一般的なご注意

取り扱い上のご注意

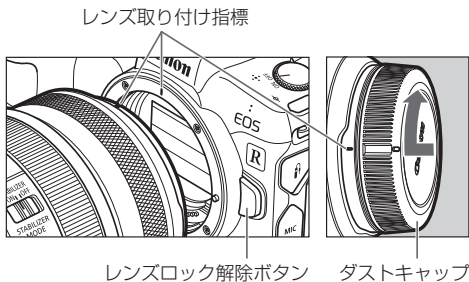
- 日光下の車の中など、高温となる場所に製品を放置しないでください。故障の原因となります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所に移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かい場所から寒い場所に移すときも、同様にしてください。
- レンズの内部が揺れ動いて見えることがありますが、故障ではなく、使用上の問題はありません。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

各部の名称



● (**) の ** 部は参照ページを示しています。

1. レンズの取り付け／取り外し



レンズの取り付け方

レンズ側とカメラ側のレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

レンズの取り外し方

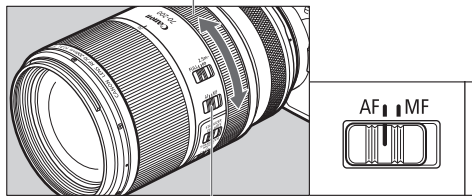
カメラのレンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回します。回転が止まるまで回してから取り外します。

詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

- レンズの取り付け/取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。
 - レンズを取り外す前に、レンズキャップを取り付けてください。
 - レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、レンズマウント側を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。ダストキャップを取り付けるときは、レンズ側とダストキャップ側の取り付け指標を合わせてください。
 - 接点に傷、汚れ、指紋などが付くと接触不良や腐食の原因になり、動作不良を起こすことがあります。汚れなどが付いたときは、柔らかい布で接点を清掃してください。
 - 防塵・防滴性能の向上のために、このレンズではレンズマウントにゴムリングが付いています。このゴムリングにより、カメラのレンズマウント周辺に細い擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。
- ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。(有料)

2. フォーカスモードの選択

フォーカスリング



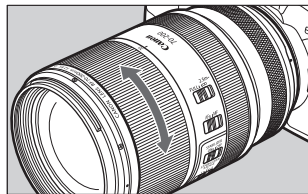
フォーカスモードスイッチ

オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを手で回してピントを合わせます。

- フォーカスリングを急回転させた場合、ピント合わせが遅れることがあります。

- このレンズのフォーカスリングは電子式です。
- フォーカスモードスイッチをAFにしたときにも、マニュアルでピント調整ができます。(フルタイムマニュアルフォーカス) ただし、カメラの設定変更が必要です。詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

3. ズーミング

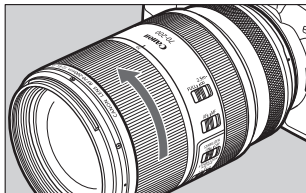
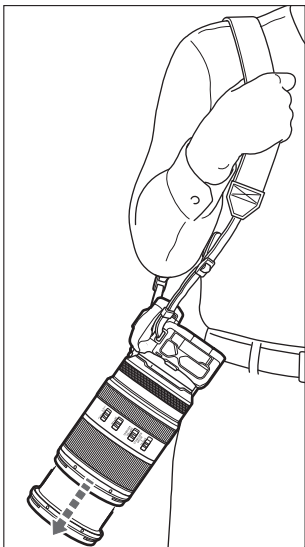


ズームリングを手で回してズーミングします。

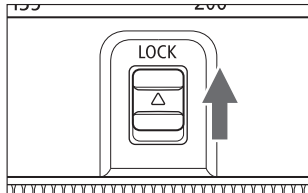
- ピント合わせはズーミングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズーミングすると、ピント誤差が生じることがあります。
- ズームリングを急回転させた場合、一時的にピントがボケることがあります。
- ズーミングのとき、レンズの前側とズームリングの間に指などをはさまないように注意してください。

4. ズームリングの固定

ズームリングを固定して、レンズを最短状態に保持できます。ストラップ付きカメラに装着した状態で運搬するとき、ズーム繰り出し部が伸びてしまうことを防ぎます。



1 ズームリングをワイド端 (70mm) まで回します。

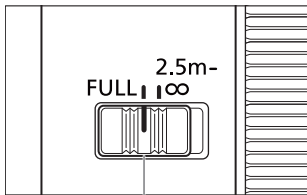


2 ズームリングロックレバーを矢印の方向にスライドします。

- ズームリングの固定を解除するときには、ズームリングロックレバーを矢印の反対方向にスライドします。

! ● ワイド端以外ではズームリングを固定できません。

5. 撮影距離範囲の選択



撮影距離範囲切り換えスイッチ

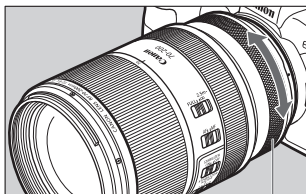
撮影距離の範囲をスイッチで選びます。撮影距離に応じて選ぶことで、AF作動時間が短くなります。

撮影距離範囲

- ① FULL (0.7m-∞)
- ② 2.5m-∞

6. コントロールリング

コントロールリングは、シャッター速度や絞り数値の設定など、カメラでよく使う機能を割り当てて使います。



コントロールリング

コントロールリングは回すとクリックがあり、回した量が分かるようになっています。コントロールリングの使い方について、詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。



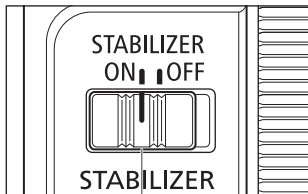
- コントロールリングの操作音は動画撮影中に録音されることがあります。



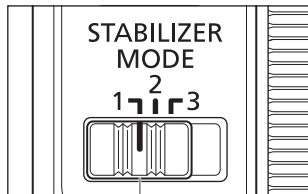
- キヤノンサービスセンターで、コントロールリングのクリックを無くすことができます。(有料)

7. 手ブレ補正機能

手ブレ補正は、手持ち撮影で生じるブレを補正します。



手ブレ補正スイッチ



手ブレ補正モード選択スイッチ

1 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 手ブレ補正を使わないときは手ブレ補正スイッチをOFFにします。

2 用途、状況に応じて手ブレ補正モードを選びます。

手ブレ補正モード

- MODE 1：全ての方向の手ブレを補正します。
主に静止した被写体の撮影に適しています。
- MODE 2：水平、または垂直にカメラを振ったとき、振った方向と直交する手ブレのみを補正します。
動く被写体の撮影に適しています。
- MODE 3：露光中はMODE 2と同じように手ブレを補正します。
露光中のみ手ブレを補正するため、不規則に動く被写体の撮影に適しています。

手ブレ補正機能

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影に適しています。

MODE 1

主に静止した被写体の撮影



- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボが使えない場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使えない状況

MODE 2

動く被写体の撮影



- 自動車や鉄道などの流し撮り

MODE 3

不規則に動く被写体の撮影



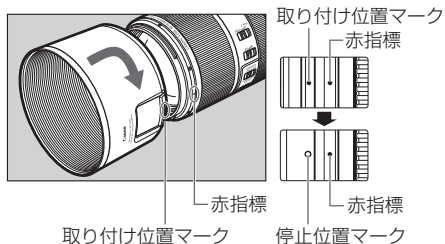
- サッカーやバスケットボールなどのスポーツ撮影
- 動物などの撮影

手ブレ補正機能

- 被写体が動くことによって生じるブレは補正できません。
- 次のような条件では、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
 - ・ 大きな揺れや速い振動のとき
 - ・ MODE 1で流し撮りをしたとき
- 三脚を使用した場合は、手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使った場合も手ブレ補正は働きますが、撮影条件によっては補正効果が十分に得られないことがあります。

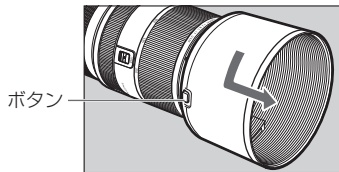
8. フード

専用のフードは、不要な光をさえぎるとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



フードの取り付け方

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標を合わせ、フードを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



フードの取り外し方

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズ先端にある赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外します。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

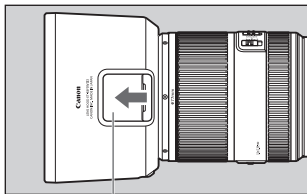


- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元付近を持って回してください。フードの先端付近を持つと変形して回らなくなることがあります。

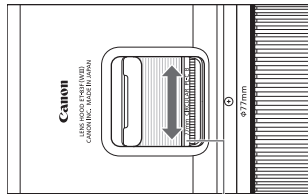
フード

フードに設けられたフィルター調整窓を開けることによって、フードを取り付けたまま円偏光フィルターを調整することができます。

フィルター調整窓について



フィルター調整窓



円偏光フィルター

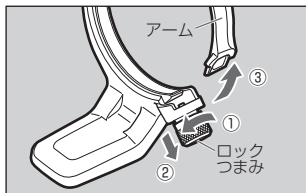
- 1 フードに設けられたフィルター調整窓をスライドさせて開けます。
- 2 開けたフィルター調整窓から円偏光フィルターを調整します。

- 円偏光フィルターの取り付け/取り外しは、フードを取り外して行ってください。
- 撮影はフィルター調整窓を閉めて行ってください。

9. 三脚座

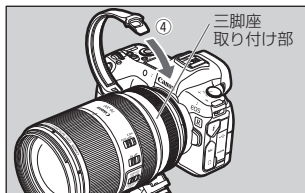
三脚または一脚は、レンズの三脚座に取り付けます。

三脚座の取り付け



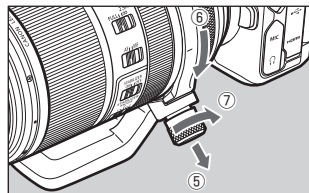
1 三脚座のアームを開く

- ロックつまみを空回りするまで(約3回転)ゆるめます(①)。
- 矢印の方向にロックつまみを引っ張りながら(②)アームを開きます(③)。



2 レンズに取り付ける

- アームを開いたままレンズの三脚座取り付け部にはめ込み、アームを閉じます(④)。



3 レンズに固定する

- ロックつまみを引っ張りながら(⑤)、開いたアームの先端を元の位置まで差し込みます(⑥)。
- ロックつまみを回して締めつけ、しっかりレンズに固定します(⑦)。

三脚座を取り外すときは、カメラやレンズを持って、上記の逆の手順で取り外します。

レボルビング(回転)

三脚座のロックつまみをゆるめると、カメラごと回して画面の方向(縦位置、横位置など)を任意に設定できます。設定後はロックつまみを締めつけてください。

10. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けねじ部に取り付けます。



- フィルターは1枚のみ使えます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C Bを使ってください。
- 円偏光フィルターの取り扱いについては、p.13をご覧ください。

11. クローズアップレンズ（別売）

クローズアップレンズ500D（77mm）を使用して拡大撮影ができます。

撮影倍率は、0.14～0.46倍です。



- クローズアップレンズ250Dは使用可能なサイズがありません。
- 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

主な仕様

焦点距離・明るさ	70-200mm F2.8
レンズ構成	13群17枚
最小絞り	F32
画角	水平 29°～ 10°、垂直 19° 30'～ 7°、対角 34°～ 12°
最短撮影距離	0.7m
最大撮影倍率	0.23倍 (200mm時)
画界	約322×212～ 152×101mm (0.7m時)
フィルター径	77mm
最大径×長さ	約89.9×146.0mm
質量	約1070g (三脚座を含まず)
フード	ET-83F(WIII)
レンズキャップ	E-77 II
ケース	LP1424

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。
付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mm になります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品の製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の機種への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、お手持ちの消耗品や付属品がご使用いただけなくなることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間 (平日/土) 9:00 ~ 17:00

(12月31日から1月3日は、休ませていただきます。)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-2111-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Canon